

## 蒲生干潟の植物②9

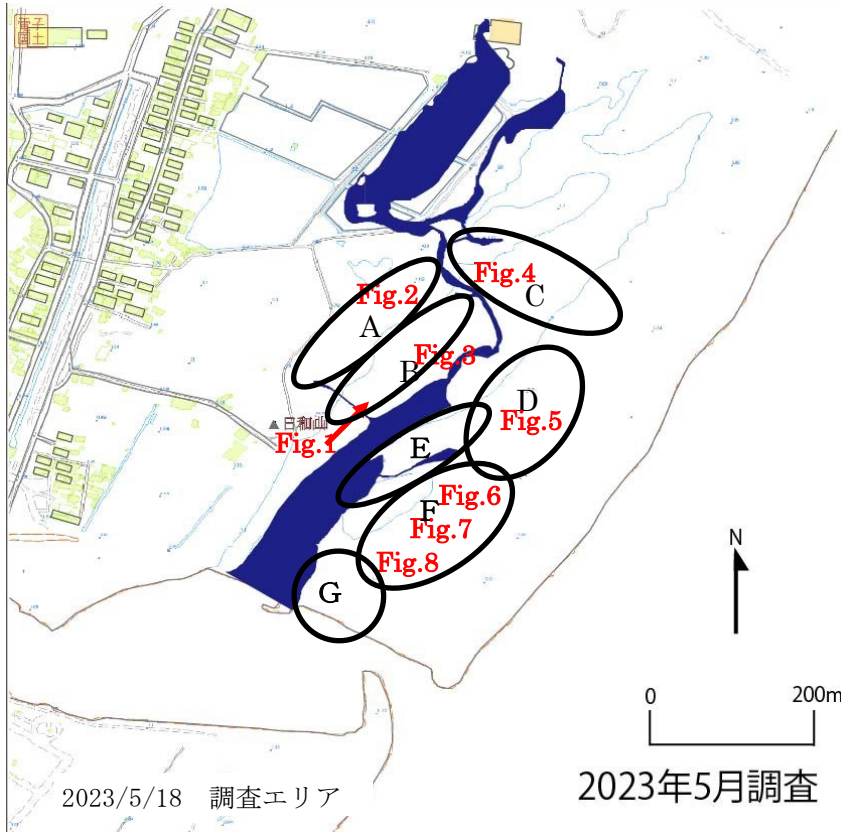


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



ヨシ

Fig.2 エリアAで撮影



ハママツナ

Fig.3 エリアBで撮影



シオクグ

Fig.4 エリアCで撮影



コウボウシバ

Fig.5 エリアDで撮影



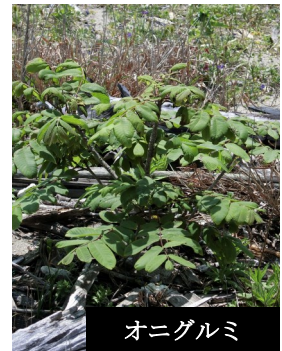
ハマヒルガオ  
ハマエンドウ

Fig.6 エリアFで撮影



ハマニガナ

Fig.7 エリアFで撮影



オニグルミ

Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2023年5月18日（木）9:45～11:00，天気：快晴

干潮後の調査で水が非常に少なかった。定点観測では、水の流入があるエリアのハママツナが少ないことが遠目でも確認できる状態であった（Fig.1）。エリアAのヨシは、90cmほどに伸びており、この1か月で50cm伸びているのが確認できた（Fig.2）。エリアBのハママツナも、徐々に大きくなっているほか、昨年の枯死した個体が少なくなっていた（Fig.3）。エリアCでは、先月確認できなかったシオクグの穂が確認できた（Fig.4）。エリアDの砂地を埋め尽くすようにコウボウシバが生えており、穂ができているのが確認できた（Fig.5）。エリアFでは、ハマヒルガオとハマエンドウが同時に開花しているのが見られた（Fig.6）。この時期は例年、ハマエンドウのみが見られるが、今年は気温が高い日が多く、ハマヒルガオも開花しているのが確認された。6月にハマヒルガオがどうなっているか確認したい。また、砂地を埋めるようにハマニガナの開花も確認できた（Fig.7）。エリアFの南側では、オニグルミが確認できた（Fig.8）。昨年度も数多く確認できたが、冬にすべて枯死したのを確認していた。今年のオニグルミが定着するのか注視したい。

（宮崎佳彦）